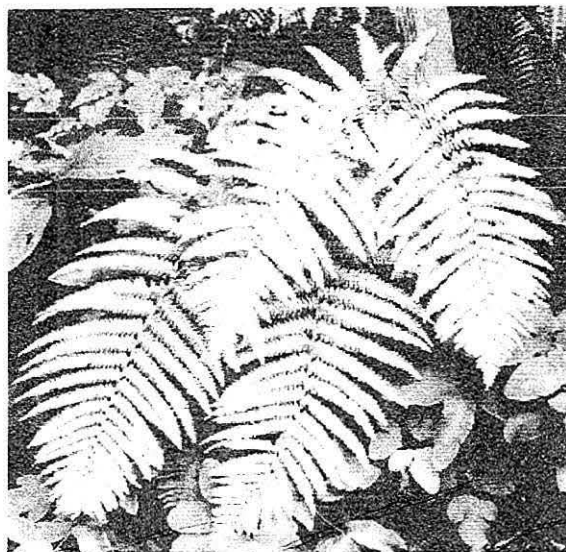


裏が白いウラジロ



お正月の鏡餅かがみもちの下に、緑色の植物の葉が2枚しいてあるのを見たことがありますか。この植物のなまえは、ウラジロ。葉の裏が白いことからこのように呼ばれています。鏡餅かがみもちという縁起えんぎを大切にするものに使われるからには、それなりにいわれがあります。それは、ウラジロの葉が、古い葉の上に1年に1段ずつ育っていく様子が、親から子へと世代がつながっていくことをイメージさせることや、2枚の葉が「八」の字についているので、末広がりすえひろに栄えわたるように感じさせるためです。また、裏返すと色が白いことは、心に裏が無い（うそをつくような心がない）ことを感じさせます。さらに、冬にも緑色をしているし、お鏡に飾っておいてもあまりしおれないなど、良いことづくめのことが喜ばれて、縁起のいいものとして使われるようになったのでしょう。ちなみに、鏡餅かがみもちに使われる材料はどれも縁起をかついでいて、昆布こんぶは「よろこぶ」の語ろあわせ、だいたい（普通はミカンが使われます）は家が代々続きますようにとの願いから、使われています。

さて、ウラジロはワラビやゼンマイと同じシダ植物のなかま。「シダ」というのは、しだれて生えている様子から、そのように呼ばれるようになりました。ウラジロの葉がしだれている様子は、まさに「シダ」そのものです。

2枚の葉のつけねに来年のための芽をつけ、芽から30センチほどのかたい^{くさ}茎を伸ばした先に、ふたたび2枚の葉を伸ばします。2枚の若葉は両手を斜め上に上げたようにのびるので、元気のいい感じのする植物です。

ウラジロの葉のつくりは、単純な波形の繰り返しです。地球上の生き物の歴史の中で、割と早くに登場した植物ですが、その後あまり複雑な体の仕組みを作らずに、現在まで生き続けてきました。恐竜の時代から出てくるシダの化石の葉の形と、ウラジロなど現在のシダの葉の形とは、ほとんど違いません。

ウラジロは暖かい地方に生えている植物で、九州や沖縄ではありふれた植物ですが、雪国富山県では、冬が寒いために、死ぬか生きるかのぎりぎりのところで生きています。富山県で探すのには、かなり苦労します。

自然に生えているのを見られる場所は、富山市三熊古洞の池自然活用センターの杉林、婦中町ねいのさと鳥獣保護センターの裏、朝日町宮崎鹿島神社の裏山など。山をけずって作った道沿いや、土砂くずれのあとの斜面に生えています。雪がとけたら見に行きませんか。

おおたみちひと

富山市科学文化センター

〒 939-8084

富山市西中野町 1-8-31

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp/>

2004年1月1日発行

ウラジロ

